

国家戦略特別区域等における規制改革事項に係る提案について（第2回WGヒアリング）

令和の陶山訥庵

～自然生態系に影響がない生息頭数への誘導～



陶山鈍翁（訥庵）



長崎県対馬市₁

※『生類憐れみの令』の中、猪を絶滅させた『猪鹿追詰』

国家戦略特区諮問会議

令和6年12月24日（火）

石破内閣総理大臣がご臨席の下、首相官邸にて開催された
その説明資料内に下記のとおり記載されている

（資料2－1）

ニホンジカの生息頭数の適正化に向け、地域の実情を踏まえた実効的な支援を行う
【速やかに対応】

（資料2－2）

人手不足など地域の深刻な実情を踏まえつつ、環境省は今後速やかに、対馬市に対し、
全国で実施しているシカ捕獲の知見のうち、現地に適した捕獲方法を提案するほか、対
策の進捗を関係者間で管理しつつ、ニホンジカの捕獲方法についての適切な助言や長崎
県を通じた交付金による捕獲など、生息頭数の適正化に向けた対馬市の実情を踏まえた
実効的な支援を行う。

①

②

③

地域の実情を踏まえた実効的な支援を速やかに行う

国家戦略特区諮問会議を受けて・・・

令和7年3月7日（金）

環境省 鳥獣保護管理室から技術的助言（下記要約）

簡易な施設であまり人力を必要とせず**効率的に捕獲できる捕獲方法は見当たらない**
現実的には『囲いわな+追い込み猟』だろう

①1991年 水上捕獲の研究（大量捕獲手法の検討）成果の紹介

②指定管理鳥獣捕獲等事業の事例紹介

（Web上に公表している事例集のURLを添付）

対馬の地形や既存の構造物を利用した追い込み猟などが比較的大量捕獲が見込める方法として**検討の余地**があるのではないかと『対馬ニホンジカ戦略会議』（平成30年度プロジェクト立ち上げ：環境省事務局）で専門家を招聘して、現地確認の上で**有効な捕獲手法を検討する**のが現実ではないかと農林しいたけ課にも、まずは『対馬ニホンジカ戦略会議』に参加いただきたい

※令和6年度まで『対馬ニホンジカ戦略会議』の担当窓口は自然共生課

環境省から技術的助言を受けて・・・

令和7年3月7日（金）

環境省 鳥獣保護管理室から技術的助言があった旨を地方創生推進事務局に共有

- ① 罠い込んでの追い込み猟については、過去に実証試験済み
- ② 水上捕獲は30年以上前の研究成果である
有効な捕獲手法であれば全国的に普及しているはず
対馬市とは条件が違いすぎる場所での研究成果で参考にならない
- ③ 全国事例の列記では現地に適した捕獲手法の提案とはならない
対馬市が費用負担して1つずつ有効な捕獲手法かを確認しなければならないのか？
- ④ 『対馬ニホンジカ戦略会議』を開催しても生息頭数適正化に繋がっていない（結果が出ていない）ので国家戦略特別区域の提案をしている

当市においては正直なところ**検討する時間すら惜しい**（状況は逼迫している）

環境省 鳥獣保護管理室から提案があった技術的助言は

① ②
地域の実情を踏まえた実効的な支援ではない

国家戦略特区諮問会議から半年が経過

令和7年3月7日（金）以降今日まで、環境省 鳥獣保護管理室から連絡はなし

③

速やかな対応とはとても言える状況ではない

一方で、対馬市において指定管理鳥獣捕獲等事業（環境省発注）が実施されている。指定管理鳥獣捕獲等事業においては、**捕獲個体の放置が特例で認められている**ため、対馬市においても忍び猟での**捕獲個体を一部放置している**が、有害捕獲個体（捕獲報償金）への不正流用される可能性があるため、例外規定として認められていたとしても、環境省には捕獲個体を放置しないように対馬市から申し入れしているところ。

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第37条の審査基準

審査基準②：法第18条に基づき、捕獲等した鳥獣を放置してはならないことから、柵等で囲まれ管理された環境下または摂取した個体を把握して、**死亡した個体を回収できる環境下において実施した上で死亡した個体を回収し、適切に処理すること。**

の基準を固持しつつ、**環境省自らが捕獲個体を放置している**ことには違和感しかない⁵

対馬市が望むこと（リマインド）

○対馬市が望むことは

①ニホンジカ生息頭数を適正頭数（3, 500頭）まで減少

②自然生態系の回復

○有害捕獲駆除を始めて40年以上が経過

○これまでに投じた経費は膨大な額に膨れ上がっている

○当市の財政状況は厳しく、いつまでも有害捕獲対策に財政負担できるものではない

○人口減少も加速度的に進んでおり、
捕獲圧の維持も難しくなってくる

○捕獲頭数は令和3年度をピークに
減少に転じて3年連続減少

H27	H28	H29	H30	R1
4,428頭	5,065頭	5,401頭	6,253頭	8,236頭
R2	R3	R4	R5	R6
7,580頭	11,321頭	10,478頭	8,704頭	7,487頭

○ゲームチェンジャーとなり得る捕獲手法が望まれている

○硝酸塩経口投与はニホンジカ生息頭数減少のためのツールでありゴールではない

○そのためニホンジカを減らせれば捕獲手法（硝酸塩経口投与）にはこだわらない

○ただ、実効的な代替案がないのであれば、硝酸塩経口投与を実施させてほしい

○国家戦略特区制度は地域を実験場とした規制・制度改革の突破口

ニホンジカ以外の野生の反芻動物がいない点で他地域よりも実験場として適している。